



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2017.2

No.394

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



カメラで広がる野鳥との世界

廣田純平(上尾市)

● きっかけ

近年、フィールドに出かけると、いわゆる「大砲」と呼ばれるカメラ以外に、コンパクトでも超望遠で撮影ができるコンデジやミラーレス機を持って、野鳥観察を楽しむ方の姿が増えた。これはカメラメーカー全体の技術向上と、一眼レフに比べて比較的安価で鳥を楽しむカメラが増えたことによると思われる。

私自身、カメラを始めたきっかけは、これまでずっと観察だけの人間であったが、やはり年数が経つとどこでどんな鳥を見たかという記憶の衰えと、せっかく見た鳥たちの記憶が薄れていく悲しさに苛まれたことが大きな理由だ。一昔前はフィルムカメラが主流の時代であったが、デジタルカメラの普及以降、最初の機材代はかかるにしても、フィルムを買う必要が無い分、何千枚シャッターを切ろうと、プリントしなければ、ほぼお金がかからずに楽しめるのがデジタルカメラの特徴だ。

これらを踏まえ、「観察のみ」であった野鳥観察から「観察+撮影」にすることによって楽しめること、そして現在私がオススメするミラーレス一眼とコンデジのカメラの機種(私はNikonユーザーのため偏りがあることはご容赦ください)を記述し、会員の皆様の今後の野鳥の楽しみを増やせられればと思う。

● 観察の幅が広がる

「人に教えてもらったからその鳥とわかった」という経験は多いのではないだろうか? 理想は現場でその鳥を識別できることである。

しかし、現場で識別点を把握できるのが一番ではあるが、写真に残すことで、図鑑と見比べ識別点を把握することが出来るのもカメラの良いところだ。その識別点を把握し、次の機会にその経験を活かし、観察のみで識別が可能になれば、バードウォッチングにおいて観察の幅が広がると私は考える。

● 瞬間瞬間の鳥の様子が観察できる



写真1

ご存知のとおりカメラはその瞬間を記録できるものである。

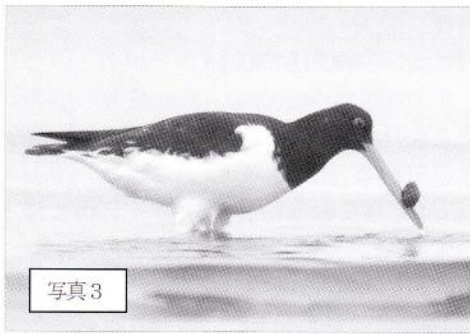
私が特に好きなのは鳥の表情と仕草だ。図鑑で見る「まさに」という写真も良いが、私は鳥たちのいわゆる「変顔」が見られるのも好きだ。そんな時は、私は普段にも増してシャッターを切るようにしている(写真1、2)。



写真2

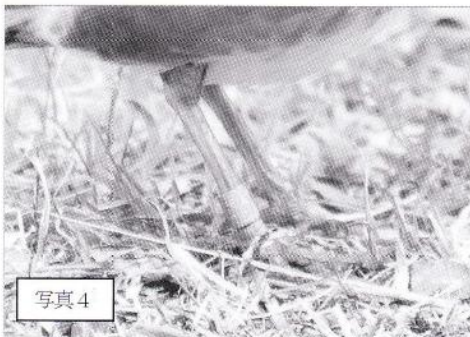
仕草で一番好きなのはミヤコドリだ(写真3)。ミヤコドリは干潟で貝を探して採餌をするが、まれに貝に嘴を挟まれることがある。その時のミヤコドリは慌てふためき、貝を海水にジャバジャバつけて一生懸命落そうとするが、その様子がとても愉快でおもしろい(ミヤコドリ本人は大変だとは思いますが)。

こういった鳥のおもしろい瞬間を、後々に見返すことも観察の楽しみの広がりにつながると思う。



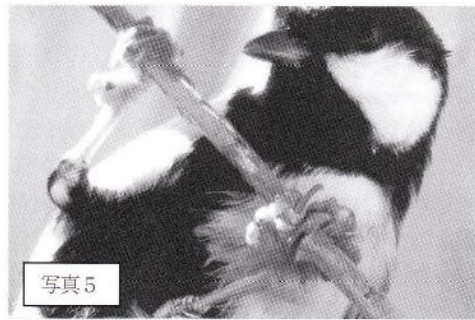
● **その時は気づかなかった事がわかる**
写真に残したからこそ、気づくことは多々ある。

最も多いのは足環ではないだろうか。足環は世界中でバンディングによって付けられたものであり、渡り鳥の移動ルート解析や個体の年齢の推定に役立つものである。読者の皆さんも、足環をつけた鳥を見たことがあると思う。



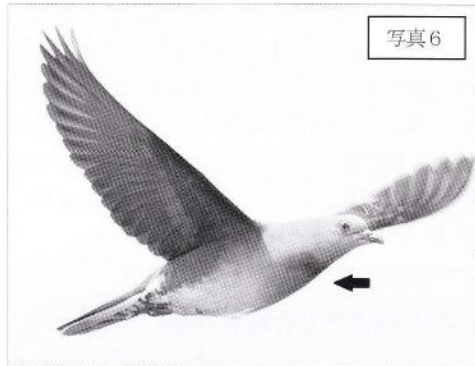
シギ・チドリについては鳥の中でも足環がつけられた個体が多く、うまく撮影でき、足環の番号やフラッグの色がわかれば、山階鳥類研究所などの研究機関に問い合わせると、どこから来た個体かわかるはずだ。私自身も足環をつけた個体の写真を撮り、問い合わせをした結果、どこから来た個体かわかったことがある(写真4)。

自分の写真を見て気づいた事例はいくつかあるが、鳥ボックス症もその一つだ。写真5は採餌中のシジュウカラの写真であるが、足に大きな腫瘍のようなものが見られる。これは観察の段階でもわかることが多いが、ご存知のとおりシジュウカラはせわしなく動き回るため、写真だからこそじっくり見ることができ、気づくことが出来た。



次の事例はアオバト。大磯の照ヶ崎海岸で撮影をしていたところ、首が赤い個体があった。なんだろうと思ひ、その個体の写真を撮るようにし帰ってから写真を見た。外傷というわけでもなく首が赤くなっており不思議に思った(写真6)。

鳥に詳しい友人に聞いたところ、アオバトは木の実を食べることがあるが、その実の汁が赤く、ヒナに餌を与える際のピジョンミルクが自分の首についているとのことだった。このことから、地元では昔からノドアカとも呼ばれているようだ。



● では、カメラは何を選べば…?

日本唯一の野鳥専門誌『BIRDER』(2016年5月号)の特集「ミラーレス一眼・超望遠コンデジを使いこなす!」に、縁あってミラーレス機のレビューを書かせていただいた。

この号により、通常の一画レフ・ミラーレス一眼・コンデジ等のそれぞれの特徴がよく比較できる。今後のカメラ導入にあたって、大いに参考になるものと思われる。

ここでは主な機種を次ページに簡単に紹介する。

～ミラーレス機～

【ニコン Nikon1 V3】

Nikon1 V3 (カメラ本体) と 1 NIKKOR VR 70-300mm f/4.5-5.6 (レンズ) を組み合わせることにより、焦点距離 189mm～810mm (35mm 換算) という超望遠での撮影が行える。総重量 1 kg 以下というコンパクトさも魅力だ。

また、野鳥撮影にむいているのが秒間 20 コマの連写性能。最大 60 コマでの撮影も可能だ。現行の Nikon の一眼レフ最上位機種 D5 でさえ秒間約 12 コマであることを考えると、驚異的な連写能力である。オプションの電子ビューファインダーとグリップを付ければ、さながら一眼レフのような操作感を味わえる。

【オリンパス OM-D E-M1】

OM-D EM1 (カメラ本体) と M. ZUIKO DIGITAL ED 300mm F4.0 IS PRO (レンズ) を組み合わせることにより、焦点距離 600mm (35mm 換算) での撮影が行える。この組み合わせの魅力は、カメラ本体の手ブレ補正とレンズ本体の手ブレ補正が、強力に手ブレを軽減してくれる。

前述の Nikon1 V3 と比べると、レンズの開放 F 値が 4.0 と明るく且つ単焦点レンズのため、画質についてはこちらのほうが上ではないかと思われる。また秒間コマ数は 10 コマと野鳥撮影向きだ。なお、「OM-D EM1 Mark II」が 12 月に発売された。要注目である。

～コンデジ～

【ニコン COOLPIX P900】

焦点距離 24～2,000mm (35mm 換算) という現在発売されているコンデジの中でも驚異的な超望遠だ。超望遠のレンズは暗いかと思われるが開放 F 値 6.5。

また、この機種には「鳥モード」が搭載されており、広角時にモニターで被写体を捉えて OK ボタンを押すと、一気に被写体までズームしてくれる。ズームしている間に鳥を見失い、飛ばれてしまうということも防げるかもしれない。

秒間コマ数は 7 コマで野鳥撮影にも向いている。

【キャノン PowerShot SX60HS】

ニコン COOLPIX P900 よりは一回り小さく、手軽な超望遠コンデジとして人気の機種。焦点距離は最大で 1,365mm (35mm 換算)、高速なオートフォーカスと強力な手ブレ補正、秒間 6.4 コマと野鳥撮影には十分なスペック。フィールドでよく見かけるコンデジの一つだ。

野鳥撮影では、基本的にズーム機能を使うことが多いが、電源を切ってもズーム位置を記憶する「ズームメモリー」が搭載されており、電池を気にして電源を切っても、またズームで撮影が始められるのも嬉しい機能。

自宅付近でタカ柱を目撃

石川敏男 (春日部市)

9月30日、春日部市大場の自宅付近南東上空で一群のタカの移動を目撃した。

午前7時47分頃、明るい曇り空の下、南東方向上空、かなり高いところで、5、6羽の鳥がタカ柱のような動きをしているのを認めた。双眼鏡で見ると、その左から飛んでくる個体もあり、すぐにタカ柱は崩れて、右へ(西へ)流れていく。その数、おおよそ12羽～15羽ほどだった。東寄りの風が吹いていた。種別は大きさ(カラス大)、飛形、翼動、時期からサシバと思われる。

仰角と距離から見ていた飛行ルートを地図

上に落とし込んでみると、春日部市大場地区⇒増田新田(自宅のあるみどり住宅地)⇒ウィングハット(同市のスポーツ施設)南方⇒岩槻区増長・長宮・・・。

この延長線上は、西の蓮田市笹山・黒浜沼もしくは岩槻区平林寺辺りとなる。東へ辿れば、サシバ観察ポイントの野田市スポーツ公園方向だ。たまたまこの日は東風が吹いていたので東⇒西をとったのか、1回だけの目撃ではなんとも言えない。

しかし、想像を逞しくすると、彼らは、野田市スポーツ公園辺りから、蓮田市笹山・黒浜沼または岩槻区平林寺辺りというコースをとった可能性はある。



野鳥情報

入間市新久 (5339-5298) ◇8月28日午前9時30分頃、入間台団地内の住宅庭にアカシヨウビン?飛来。2~3m先の庭の木の枝に数秒間とまり、飛び去りました。さほど野鳥に詳しくはありませんが、くちばしの形状・全身の色を妻とともに確認したので、ほぼ間違いのないと思います。「入間市の野鳥Ⅲ」や他の野鳥図鑑の写真と比べると、全体の色がやや薄いかと思った。ここに住んで40年、庭に樹木が多いのでいろいろな小鳥が来ますが、この鳥は初めて目撃した。写真は間に合わなかった(高月俊文 ※氏は未入会)。

さいたま市桜区大久保農耕地A区 ◇9月3日、ムナグロ13羽。アネハヅル到来の情報に大久保A区へ直行…、空振り。でも稲刈りの終わった田んぼにムナグロの若鳥らしい群れが下りていました(浅見 徹)。

川越市伊佐沼 ◇9月3日、オグロシギ2羽、セイタカシギ10羽+、イソシギ2羽(浅見 徹)。

桶川市舎人新田調整池 ◇9月4日午前5時47分、ゴイサギ46羽。9月27日午前5時59分、ゴイサギ67羽、今年最多(小貫正徳)。

桶川駅西口公園 ◇9月9日、ツミの親子の乱舞を見た。「キキキ・・・」と鳴きながら追っかけっこをして、すごい速さで林の間を駆け巡っていた。9月9日午前6時20分~、ツミ3羽で追っかけ。10日午前6時20分~、ツミ1羽でオナガの群れを追う。11日午前6時30分~、ツミ3羽、親子で追っかけ(幼鳥の姿を近くで確認)。12日午前6時30分~、ツミ2羽で追っかけ。11日は近くにお住いの秋葉芳男氏と観察した(立岩恒久)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇9月11日、エナガ7~8羽(今季初認)。次いでシジュウカラ20羽土とメジロ20羽土の混群がこの順番で榎→銀杏→梅→柿→檜の順に枝移りで移動した。9月11日、サシバ4羽のタカ柱。その内の1羽にツミが猛攻撃。9月14

日、チョウゲンボウ2羽が旋回。そこにツミ2羽がアタック。4羽で空中戦が始まった。7月10日~9月27日の間、西城沼公園周辺で見られたサシバ35羽の内、写真で確認できた成鳥は4羽、若鳥は10羽。8月18日以前は成鳥。8月19日以降は若鳥であった。若鳥は渡りのルートを探しているように感じた(長嶋宏之)。

吉見総合運動公園 (5439-0368) ◇9月12日午後12時~1時頃、ノスリ3羽、トビ5~6羽(関口明宏)。

さいたま市桜区白鷺 ◇9月12日夕方、電建住宅調整池の広い水たまりでハクセキレイ成鳥、幼鳥15羽が採餌(大塚純子)。

杉戸町才羽 (N36.0264, E139.7673) ◇9月13日、ケリ3羽が雨の中、稲刈りの終わった田で採餌(長嶋宏之)。

越谷市大吉 ◇9月14日午前9時30分、古利根川右岸、寿橋上流300m地点で、イカルチドリ17羽、イソシギ2羽。他にカルガモ、アオサギ、コサギ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラスなど。イカルチドリは、例年9月上旬、古利根川の水が落ちるとすぐに10数羽で飛来し、冬の最盛期は30羽以上。終認は3月上、中旬頃(未だ寿橋の水門は閉まらず、礫地帯は残っている)となる。また、稀にアオアシシギ、タカブシギ、オジロトウネン(左岸の泥状地帯)などが見られることがある(植平 徹)。

蓮田市駒崎・井沼地区 (5439-0510) ◇9月16日午前7時40分頃、駒崎・井沼地区農業集落排水処理施設横の電線でツバメ約100羽、ショウドウツバメ約5羽。9月17日も同所で見られた(関口明宏)。

川越市伊佐沼 ◇9月17日、サルハマシギ1羽、ムナグロ1羽、クロハラアジサシ1羽、コアオアシシギ13羽、コチドリ10羽土、セイタカシギ5羽+。他にカルガモ、カイツブリ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、イソシギなど(長嶋宏之)。

表紙の写真

スズメ目ヒタキ科トラツグミ属トラツグミ
雪の積もった朝、神社の境内に出てきてくれました。
新井 巖(深谷市)



行事案内



ミヤマホオジロ(久保田忠資)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月2日(木) 平日

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:30 発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、石塚(敬)、石塚(真)、今村、新部、藤田

見どころ：あでやかな繁殖羽になったカモやカンムリカイツブリ。さえざり始めた小鳥は誰？ 恋の季節が始まっています。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月4日(土)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線 狭山市駅西口から、智光山公園行き 8:50 発西武バスで終点下車。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木(秀)、藤掛、星、水谷、山本

見どころ：年に一度の探鳥会ですが、“意外な鳥”の出現率が高いフィールドです。今年はどうな“意外”に出会えるでしょうか？

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月4日(土)

集合：午前8時35分、東武東上線 武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山

史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線 川越 7:59 発、または寄居 8:04 発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林でシロハラ、イカル、アトリ、ウソ、トラツグミ。両岸でクサシギ、イカルチドリ、セキレイ 4 種、猛禽を期待。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：須崎、伊藤、大井、高崎、野口(修)、藤田、若林

見どころ：探鳥会での冬鳥の見納めになります。50 種越えに期待しましょう。

ご注意：防寒対策はしっかりと。途中トイレがありません。天候でコースを変更します。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、近藤、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：当地のベストシーズン。赤い鳥、青い鳥、黄色い鳥が貴方を待っていますお知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時20分、森林公園南入口前広場。
交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス 9:00 発で2つ目の「滑川中学校」下車、歩道橋を渡り戻る。

費用：参加費と入園料大人410円(子供80円)、65歳以上210円(要年齢確認できるもの)。
担当：鈴木(秀)、大畑、岡安、佐久間、中村(豊)、藤掛、藤澤、松下

見どころ：南口から中央橋を越えて山田大沼まで歩きます。小鳥が地上に降り、落葉を返して餌探しする時期です。沼のカモ類も換羽が終わり個性的な羽色になります。

ご注意：当初予定していた2月11日(土・祝)は、公園内でマラソン大会が行われ、交通機関、駐車場、園内の混雑が予想されるため、2月5日(日)に変更しました。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(土・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線 土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分)。

担当：青木、赤坂、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、浅見(健)、浅見(徹)、柏瀬、金子、小林(み)、田中、藤原、山田

見どころ：見沼たんぼの探鳥会では一番北側の探鳥地。駅から徒歩で現地まで行きます(駐車場あり)。ビギナーとベテランでコースを分けますので、お試し入会の方も安心です。(太字は「始めてみようバードウォッチング」で一緒だった仲間です)。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。
交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居

8:50 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：今季の大麻生野鳥の森はヤブランの実が豊作です。これはレンジャクにとっては見逃せないはずです。きっと。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月12日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線 西武球場前駅前。

担当：石光、久保田、小林(ま)、島崎、鈴木(秀)、長谷部、水谷、持丸

見どころ：カモ類観察の最適期です。カムムリカイツブリの夏羽にも期待しましょう。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月18日(土)

前回から、集合時間が早くなり、集合場所も変更になりました。またバス時刻が早くなり、乗車場所、路線も変更になっています。どうぞご注意を！

集合：午前7時40分、丸山公園南口。

交通：JR 高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場から **尾32** 西上尾第二団地經由リハビリセンター行 7:22 発で「丸山公園入口」下車、徒歩約4分。

担当：近藤、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、浅見(健)、浅見(徹)、大坂、立岩、永野、山野、吉原(早)

見どころ：早朝の静かな公園で冬鳥を探します。去年は、シロハラ、ルリビタキなど30種を確認しました。さて、今年は？

埼玉 Young 探鳥会 さいたま市・芝川第一調節池

期日：2月18日(土)

集合：【電車の方】午前9時、JR 浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ。【車の方】午前9時半、浦和くらしの博物館民家園駐車場。

交通：浦和駅東口①番バス乗り場から東川口駅北口行き 9:06 発で「念仏橋」下車 9:25 着。

担当：廣田、石塚(敬)、石塚(真)、小林(み)、島崎、高崎、菱沼(一)

みどころ：オオハクチョウの飛来地でもある当地で、カモ類、小鳥類、猛禽類を楽しめます。「Young」な皆様、学生、お子様連れ、初心者の方々、お待ちしております。

その他：①路線バスで現地に向かいます。時間厳守をお願いします。②昼食（ご持参ください）をはさんで、13時半頃解散予定。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月18日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月19日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：野鳥を求めて芝川、農耕地、林を巡ります。風は冷たいけれど、季節はもう春。鳥たちも綺麗になって待っています。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月19日（日）
集合：午前9時、東武東上線 柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：鈴木(秀)、佐久間、志村、神場、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口

見どころ：柳瀬川土手の右岸、左岸と水谷田圃を見ながら村山快哉堂まで歩きます。カモ類や冬鳥に春の兆しはあるでしょうか。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月25日（土）
集合：午前8時35分、岩槻駅東口前。または、午前9時10分、文化公園国道16号側駐車場。
交通：東武アーバンパーク線 大宮8:17発、または春日部8:14発で岩槻下車。集合後路線バスで現地へ。

担当：長野、石川、内田、榎本(建)、菊川、鈴木(誠)、鈴木(庸)、玉井、長嶋、野村(弘)、藤原、吉安

見どころ：昨年にはアリスイやベニマシコがばっちり見られました。トイレが完備された公園内や平坦な元荒川沿いの道をゆっくり歩いて、野鳥を探します。

東京都・葛西臨海公園 レディース探鳥会

期日：2月25日（土）
集合：午前9時、葛西臨海公園駅前。
交通：JR 京葉線 東京駅 8:40 発 新木場駅 8:50 発 葛西臨海公園駅 8:54 着
解散：午後2時ころ。
担当：菱沼(洋)、野口(由)、吉原(早)、渡邊
見どころ：スズガモ、ハジロカイツブリ、オオジュリンの群れ、ミサゴに会いましょう。ゆっくり女性だけで楽しめます。途中で昼食（弁当やシート持参！）をとります。

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月26日（日）
集合：午前9時30分、JR 信越線 横川駅前。
交通：JR 高崎線 大宮7:07 発→高崎8:31 着、JR 信越線 高崎8:42 発→横川9:15 着。
解散：午後3時30分ころ、横川駅前。
担当：入山、浅見(徹)、玉井、野口(修)、藤澤、星

見どころ：横川駅から小根山森林公園まで歩いて行きます。きっと青・赤・黄の野鳥たちが歓迎してくれることでしょう。

ご注意：昼食持参（森林公園まで釜飯の出前ができますので、注文は集合時に伺います）。健脚向き（探鳥コースは、往復で約5kmで、一部 急な坂があります）。積雪の可能性あります。杖があれば心丈夫です。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月26日（日）
集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。
交通：JR 高崎線本庄駅北口から国際十王バス 9:06 発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：昨年見られたカモは10種でした。

今年はカワアイサも加わる予定です。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きます、足拵えはしっかりと。今回から本庄駅でのリーダーの出迎えはありません。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月21日（金）～23日（日）

集合：21日夜9時、JR浜松町駅北改札口。集合後徒歩移動⇒竹芝栈橋東海汽船待合室。

日程：出航22:30。三宅島着22日朝5時。三宅島出航23日13:45。竹芝栈橋着19:50。

解散：竹芝栈橋にて23日20時30分ころ。

定員：23名（野鳥の会会員限定、先着順、埼玉会員優先）。

最少催行人員：15名。

費用：定員23名の場合29,000円。定員に満たない場合は次のようになります。

20～22人の場合 30,000円

15～19人の場合 32,000円

※上記費用には往復船賃、島内バス代、1泊3食、保険料などを含みます。

★今回のツアーは、近畿日本ツーリスト（株）の受注型企画旅行となります。人数・費用が確定した後に、同社から案内状が郵送されますので、参加費を振込んでください。申し込み：往復はがきに住所、氏名、会員番号、旅行時の年齢（保険加入に必要）、性別、電話番号を明記して、浅見徹（ ）まで。

2月1日消印から有効受付とします。

担当：浅見（徹）、青木、浅見（健）、榎本、小林（み）、藤掛

見どころ：島でアカコッコ、イイジマムシクイ、タネコマドリなど。帰りの船で海鳥観察。アホウドリに会えたら最高！

その他：往復2等船室。22日の朝食と昼食は各自持参。23日帰路船内の夕食代は各自負担。宿泊は男女別の相部屋です。

★当会主催の予約探鳥会（宿や貸切バスの手配が生じるもの）は、旅行業法を考慮して、原則として旅行会社を通して実施することになりました。ご了解ください。

2016年 埼玉県内 年間鳥見ランキング 参加のご案内

日本野鳥の会埼玉普及部

当会の鳥見ランキングも今回で15回目を迎えます。昨年1年間の（2016年1月1日～12月31日）の鳥見総決算として、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加してみましょう。詳細は以下の通りです。

1、埼玉県内観察鳥種数ランキング

- ・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。
- ・観察鳥種は当会の『埼玉県野鳥チェックリスト』に記載されているものとし、新種に関しては、当会野鳥記録委員会が認定した時点で加算します。
- ・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2、探鳥会参加回数ランキング

- ・日本野鳥の会埼玉が主催する探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント（宿泊探鳥会も1ポイント）とします。
- ・探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

3、ランキングの参加資格と方法

- ・日本野鳥の会埼玉会員に限ります。良心の元に自己申告してください。
- ・過去2回以上それぞれの部門で優勝された方は別格扱いとして、表彰対象からはずさせていただきます。
- ・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号、会員番号を記載して、下記まで。

E-mail：fukyubu@wbsj-saitama.org

郵送：

長野誠治宛

締切り：2017年2月末日

4、次回「2017年鳥見ランキング」について

2017年については、2部門を一本化して、探鳥会に参加して自分自身が観察した種数とするを考えています。詳しくはまた後日お知らせします。



行事報告

7月30~31日(土~日) 長野県 乗鞍・上高地

参加: 27名 天気: 晴

ライチョウ オシドリ マガモ キジバト アオバト アオサギ ホトトギス トビ ノスリ コゲラ オオアカゲラ カケス ホシガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ イワツバメ ウグイス エナガ メボソムシクイ エゾムシクイ メジロ ゴジュウカラ ミソサザイ カワガラス コマドリ ルリビタキ コサメビタキ キビタキ イワヒバリ カヤクグリ キセキレイ マヒワ ホオジロ アオジ (37種) 乗鞍の畳平に到着。案内所でライチョウの情報を聞くと「お花畑にいる」とのこと。参加者全員、現地へ急ぐ。少しして、ハイマツの陰から姿を現してくれた。お目当ての鳥を見ることができてホッとする。乗鞍から上高地へ移動。大正池で途中下車。早朝探鳥は河童橋周辺を散策。朝食後は明神へ行く。途中で参加者全員コマドリを見ることができた。今回は、鳥以外でも乗鞍・畳平のお花畑の高山植物や上高地から見られた穂高の峰々の風景、ロッジでの食事等、参加者の皆さんに感動してもらえたと思う。(入山 博)

9月11日(日) 熊谷市 大森生

参加: 36名 天気: 曇

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コゲラ サンコウチョウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (22種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 危険生物(マムシ、スズメバチ)の話をして出発。土手ではスズメ、ホオジロ、林の中でメジロ、シジュウカラが動き回っていた。枯れ枝にカワラヒワ、畑にハクセキレイ、セグロセキレイの成鳥・幼鳥がいた。キジ♀が出たが直ぐ隠れてしまった。ツバメが飛び、モズが高鳴きをしていた。コゲラが現れ、河原に出るとダイサギ、カイツブリ、カワウ。鳥合わせの時にサンコウチ

ヨウを見た人と声を聞いた人がいた。(千島康幸)

9月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、三ツ矢正安

9月18日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(小林みどり)

9月18日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 14名 天気: 曇時々雨

コジュケイ マガモ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン イソシギ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ (23種) (番外: ドバト、ガビチョウ) コースの4分の3を過ぎた頃、雨が強くなってきたので城山橋の下で鳥合わせをし、解散となった。今回は多和目橋上流川沿いに新しくできたコンクリートの遊歩道を歩いた。川の水量が多く中州など消えていたり、遊歩道工事で竹藪が広く切り開かれたり、また天候、コース短縮もあつたりで確認できた鳥種は少なかった。この天候にもかかわらず参加した14名のちょうどよい規模の集団で、和気あいあいと楽しい探鳥ができた。(山口芳邦)

9月19日(月、祝) タカの渡り調査(中間平)

雨のため中止。(千島康幸)

9月19日(月、祝) シギ・チドリ類県内調査

ボランティア: 7名

石井智、海老原教子、海老原美夫、大塚純子、志村佐治、曾我由美子、湯本貴光

9月22日(木、祝) 松伏町 松伏記念公園

雨のため中止。(田邊八州雄)

9月25日(日) タカの渡り調査(天覧山)

ボランティア: 21名(参加者名簿記載者)

浅見徹、石塚敬二郎、石塚奏、石光章、大木逸子、勝間美香、加藤利明、近藤龍哉、昆泰要、佐久間博文、佐野和宏、鈴木秀治、高橋恵子、高橋浩伸、

武田清子、野口修、長谷部登美子、広川安昭、広川幸枝、三ツ矢正安、矢野敬一

9月25日(日) 狭山市 入間川

参加: 41名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ バン アマツバメ ヒメアマツバメ イカルチドリ イソシギ ミサゴ トビ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (34種) (番外: ドバト) 9月号の見どころでは、2年続けて同じ場所で渡り途中の鳥が見られたと、ちょっと期待させるようなことを書いてしまった。たぶんダメだろうなと思ったら、出た。アマツバメが飛んでくれた。こうなったら来年も同じことを見どころとしよう。(長谷部謙二)

10月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 65名 天気: 晴

カルガモ コガモ キジバト カワウ ダイサギ ヒメアマツバメ ミサゴ トビ ハイタカ オオタカ サシバ ノスリ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ キビタキ スズメ ホオジロ (26種) (番外: ガビチョウ) 木道では、戻りにカワセミの池でカワセミを全員が観察。梅林のそばで上空にオオタカとハイタカ。河川敷では、川向うからミサゴが上空間近に。その後、7羽のタカ柱(ミサゴ、トビ4羽、ノスリ、サシバ)。休んだ時に、エドヒガンの前と北里の森でキビタキの♂の声。終了後、ユリノキの天辺に止まるエゾビタキ。先に帰った人が見られなかったのが残念。(吉原俊雄)

10月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 73名 天気: 晴

コジュケイ カルガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン ツツドリ ツミ オオタカ サシバ カワセミ アリスイ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ イワツバメ

ヒヨドリ メジロ ムクドリ ノビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (33種) (番外: ドバト) 参加された人によって話題は違うかもしれない。集合場所で見たチョウゲンボウ、ハヤブサにサシバか。この探鳥会では7年ぶりに観られたツツドリか。アオサギ10羽が上空を旋回したサギ柱か。ちょこちょこ出たり入ったりのアリスイか。それとも最後の最後に姿を現したノビタキか。渡りの時期、久しぶりに晴れて暑くなったこの日、探鳥会も熱かった一。(伊藤芳晴)

10月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 18名 天気: 曇

キジ カルガモ キジバト カワウ ダイサギ トビ オオタカ アカゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ホオジロ (25種) (番外: ガビチョウ) 土手に上がるといきなり♂のキジが飛び出した。チョウゲンボウがモズに追われ、お腹の真っ白なオオタカが飛び、ハヤブサも見られた。草原ではこの季節ならではのショウドウツバメが数羽で飛び回っていた。小鳥は少なく、期待のノビタキには出会えなかったが、涼しく心地よい探鳥会だった。(新井 巖)

10月15日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 57名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ スズガモ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン ツツドリ イソシギ ミサゴ トビ チュウヒ オオタカ カワセミ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ ウグイス キビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (41種) (番外: なし、ムシクイ科不明種1) 今年はカモ飛来が遅いようで、谷中湖は少々寂しい感じだったが、何とか7種を観察。目立ったのはヒヨドリの渡りで、次々と南へ飛んで行った。道が整備されたので久しぶり旧谷中村を通ってみると、ツツドリやキビタキ♀が出迎えてくれた。(佐野和宏)



● 念のため鳥インフルエンザ対策

世界各地で被害が出ている鳥インフルエンザは「強毒の高病原性」タイプで、野生の水鳥などが普通に持っている「低病原性」タイプとは違うものです。野鳥たちが自然な状態で生活を行っている限りは、深刻な伝染病が発生することもなければ、鳥の病気が人に感染することはありません。

本年 1 月 7 日現在、埼玉県内での発生例は報告されていませんが、バードウォッチングによって知らないうちにウィルスの移動、拡散に加担してしまうことのないように、次のことにご注意ください。

- ① 水鳥の糞が多量に落ちている水際には近寄らない。
- ② 探鳥場所から移動する前に、靴底、三脚、自動車のタイヤなど接地面の泥を落とし消毒する（消毒用エタノール IP ケンエースプレー式 500ml がおすすめとか）。
- ③ 複数の探鳥地の移動をしない。どうしても必要な場合は、移動の前に消毒を。
- ④ 帰りに養鶏場、動物園などに近づかない。

野鳥の死体を発見したら、素手で触らず、埼玉県環境部みどり自然課野生生物担当(電話：048-830-3143)にご連絡ください。

(財団本部『探鳥会スタッフ通信』メール版 2016 年 12 月 7 日発行号外などから)

● 会員の普及活動

新ハイキングクラブ主催「野鳥を観る・知る」第 20 回が 11 月 26 日(土) 越生駅～越辺川～武州唐沢駅で開催され、小林みどり、浅見徹、工藤洋三、藤田敏恵、星進が野鳥観察指導。

彩の国シニア自然大学校「野鳥観察コース」第 2 回が 12 月 7 日(水) 渡良瀬遊水地で

開催され、小林みどり、石塚敬二郎、石光章、榎本秀和、近藤龍哉、菱沼洋子が指導。

● 初心者向け BW イベント in 大宮公園

12 月 11 日(日) さいたま市大宮公園で、本部支部合同バードウォッチングイベントを開催しました。当会としては 3 回目、今まで最多の 59 名が集まり、支部リーダー 16 名、財団 3 名が指導し、20 名の方がお試し入会を申し込みました。

● 会員数は

1 月 5 日現在 1,716 人。

活動と予定

● 11～12 月の活動

11 月 22 日(火) さいたま市内で開催された 県みどり自然課主催 都市鳥(カラス・ムクドリ)対策会議にて、各市町村担当者約 40 名に対し、カラス・ムクドリの生態について、約 30 分間の講義(小林みどり)。

12 月 10 日(土) 『しらこぼと』1 月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、長嶋宏之、藤掛保司)。

12 月 16 日(金) 上尾丸山公園にて、自然学習指導員 3 名に、野鳥観察研修(小林みどり)。

12 月 18 日(日) 役員会(司会:佐野和宏、予約探鳥会について・その他)。

● 2 月の予定

2 月 4 日(土) 編集部会。普及部会。

2 月 11 日(土) 3 月号校正(午後 4 時から)。

2 月 18 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

2 月 19 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

長年使ってきた携帯(ガラケー)のバッテリーがダメになった。au ショップに行くも製造切れで、在庫もないとのこと。それじゃ、スマホか…。説明を聞いたら月々の払いが今の約 2.5 倍。結局、またガラケーにすることにしました。ちなみに今はガラホと言うんだとショップのお兄さんに教えてもらいました。(藤原)

しらこぼと 2017 年 2 月号(第 394 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamazekuzoku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社